

輸出事業計画

※申請者名：愛媛県、品目：愛媛県産水産物（真珠を除く）

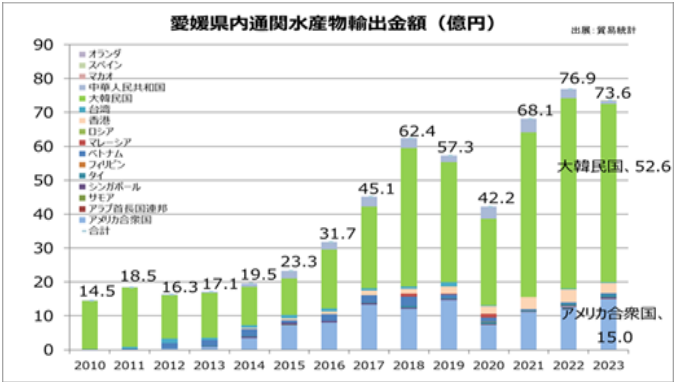
1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 本県主力輸出商品の生産量は、ブリは減少、マダイは横ばい傾向。
- 人口減少、少子高齢化、魚離れなどにより水産物の国内需要は減少傾向
- 愛媛県の輸出は増加傾向（R2はコロナ禍でダウン）
（背景）輸送技術の向上、食品流通のグローバル化、都市人口の増加、新興国等での食生活の変化、健康志向の高まり等
（追い風）世界的な水産物の需要増、日本食ブーム、補助事業充実、国輸出戦略、円安等
（実態）北米向けブリ伸長、韓国向け活魚伸長

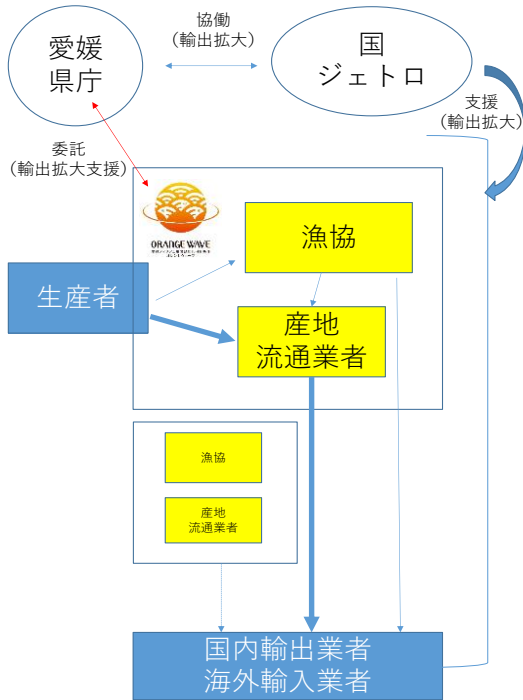
【課題】

- 輸出 ～さらなる輸出拡大に向けて～
 - ・HACCP施設の維持拡大
 - ・輸出障壁（放射性物質検査等）への対応
 - ・体制整備（FSMA対応、グリーンリスト取得等）
 - ・アイテム確保（漁業認証、戦略魚種）
 - ・認知度向上（愛育フィッシュ、EHIME JAPAN、みかんフィッシュ）
 - ・他県とのビハインド（価格等）
 - ・マーケットニーズの把握



2. 輸出事業計画の取組内容

項目	対応策
HACCP輸出	・HACCP施設整備、改修 ・輸出拡大に必要な機器を整備等
輸出障壁	・輸出証明書の迅速な発行体制 ・放射性物質検査機器の整備
体制整備	・HACCPプラン実行、FSMA対応 ・グリーンリスト取得数の増加
漁業認証	・認証取得及び維持に対する支援 ・現地ニーズの把握
戦略商品	・みかんフィッシュ等の活用
認知度	・県オリジナルのプロモーション活動 ・国（ジェトロ）と一体となったプロモーション活動
ビハインド	・多量多品種の強みを生かした販売 ・共同集荷輸送の検討
マーケットニーズの把握	・展示会等への参加 ・海外バイヤーやシェフ等の招聘等



オレンジウェーブを軸とした官民一体となった輸出拡大対策に取り組むこととし、国輸出戦略による拡大策と協働で愛育フィッシュの輸出を伸長。国輸出関連事業についても積極的に活用。

輸出事業計画

※申請者名：愛媛県、品目：愛媛県産水産物（真珠を除く）

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

愛媛県産ブリ	現状（令和2年）	目標（令和12年）	増減
輸出額（千円）	2,277,360千円	6,548,882千円	4,271,522千円
輸出量（t）	2,413 t	3,501 t	1,088 t
輸出先国	韓国、米国、香港、中国、その他	韓国、米国、香港、中国、EU、その他	EU
生産量／取扱量（t）	16,508 t／16,508 t（令和元年）	9,701 t／9,701 t	▲6,807 t／▲6,807 t

愛媛県産マダイ	現状（令和2年）	目標（令和12年）	増減
輸出額（千円）	2,665,930千円	6,107,880千円	3,441,950千円
輸出量（t）	4,282 t	5,691 t	1,409 t
輸出先国	韓国、米国、台湾、中国、その他	韓国、米国、台湾、中国、EU、その他	EU
生産量／取扱量（t）	35,350 t／35,350 t（令和元年）	37,316 t／37,316 t	1,966t／1,966t

愛媛県産その他	現状（令和2年）	目標（令和12年）	増減
輸出額（千円）	1,193,150千円	4,042,268千円	2,849,118千円
輸出量（t）	855 t	1,800 t	945 t
輸出先国	アジア、欧米等	アジア、欧米等	－
生産量／取扱量（t）	8,059 t／8,059 t（令和元年）	6,569 t／6,569 t	▲1,490t／▲1,490t

注:「現状」値は県独自調査により、回答のあったものを集計。